

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 21 日現在

機関番号：64401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24810033

研究課題名(和文) ベトナム中部地域におけるゴング文化の動態 楽器の製造・流通に着目して

研究課題名(英文) A Study of the Dynamics of Gong Culture in Central Vietnam: Focusing on the Manufacture and Distribution of Musical Instruments

研究代表者

柳沢 英輔 (YANAGISAWA, EISUKE)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員

研究者番号：00637134

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジアにおけるゴング文化の総合的な理解に向けた一歩として、ベトナム中部地域におけるゴング文化の動態を、楽器の製造・流通に着目して明らかにすることを目的とした。現地調査の結果、ベトナム北中部沿岸にあるキン族の村で行われている鑄造によるゴング製作方法の詳細と、少数民族へのゴング販売の実態の一部について明らかにすることができた。またベトナム中部高原の幾つかの少数民族の間では、村落や民族の垣根を越えて、ゴングが売買されていることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to reveal the dynamics of the gong culture in Central Vietnam focusing on the manufacture and distribution of musical instruments as a first step toward the overall understanding of the gong culture in Southeast Asia. As a result of my fieldwork, the details of gong casting method in the village of Kinh people in North Central Coast of Vietnam and a part of the current status of gong sales to the ethnic minorities were revealed. In addition, the study revealed that gongs were traded across villages and ethnic boundaries among some ethnic minorities in the Central Highlands of Vietnam.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：ゴング文化 ベトナム 鑄造 楽器の製作 楽器の流通 民族誌映画

1. 研究開始当初の背景

ゴング(銅鑼)は、現在も儀礼・祭礼に欠かせない神聖な楽器・財として、東南アジア諸地域における人々の暮らしの中で重要な位置を占めている。本研究が対象とするベトナム中部地域では、少数民族ごとに異なる様式のゴングセットと曲が受け継がれてきた。先行研究では、各少数民族のゴング演奏の形態や儀礼・祭礼における演奏の役割などについて、民族音楽学、美学などの観点から考察されてきた。しかし、それらのゴングがどこでどのように製作され、どのように流通しているのかは不明な点が多い。

2. 研究の目的

本研究は、東南アジアにおけるゴング文化の総合的な理解に向けた一歩として、ベトナム中部地域におけるゴング文化の動態を、とくに楽器の製造・流通に着目して明らかにする。

具体的な研究内容は以下の通りである。

- (1) ゴング製作方法の解明
- (2) ゴング流通の実態解明
- (3) ゴング文化に関する民族誌映画の製作

3. 研究の方法

本研究は、ベトナム北中部沿岸クアンナム省、および、中部高原のコントゥム省、ジャライ省を主な調査対象地とし、とくにゴングの製作・流通に焦点を当てたフィールド調査を実施した。

フィールド調査では、ゴング製作工程の撮影と、職人に対する聞き取り調査、少数民族村落でゴング所有者などに対する聞き取り調査、ゴングが演奏される儀礼・祭礼の調査、撮影などを行った。帰国後に、フィールド調査で記録・収集した資料(映像・音響資料を含む)の分析、研究発表、民族

誌映画の製作を行った。

4. 研究成果

ベトナム北中部沿岸クアンナム省ホイアン近郊にあるキン族の村落のゴング製作工房で、ゴング製作職人のわざをビデオカメラで記録し、職人への聞き取り調査を行うことによって、ゴング製作方法の詳細を明らかにすることができた。鑄造のゴング製作においては、原型の製作が最も重要であり、とくに高度な技術が必要であることが分かった。この点はインドネシアのジャワ島などで行われている鍛造のゴング製作方法と異なる点である。また調査を行ったゴング製作職人は、販売する少数民族ごとに、鑄込みの材料に使用する金属の配合割合を変え、さらに鑄造したゴングを少数民族ごとに異なる音の好みに合わせて調音・調律している事が分かった。また少数民族は古いゴングを好むため、新しく製作したゴングが古く見えるように、ゴングの表面に凸凹をつけたり、炭粉で全体を黒くしたりしていることが分かった。またこうした工夫は、外観だけでなく、音響的にも古いゴングに近づく効果があるとのことであった。このように、ゴング製作職人は、顧客である少数民族のニーズに合わせてゴングを製作することで、ゴング文化を支えてきたと考えられる。

ゴングを購入する顧客には、少数民族のほか、キン族、外国人の観光客などがある。北中部沿岸に住むキン族は、葬礼や祖先崇拜の儀礼の際にゴングを用いる事が分かった。少数民族は、ゴング製作工房を訪ねて直接ゴングを購入するほか、国道沿いの路面店でもゴングを購入している。その際にゴングのサイズや音(音色、音階)を細かく指定し、ゴングセットが完成するまで工房に泊まりこむこともあるという事が分かった。

少数民族のゴングの需要は年々減少しており、1954年には同村落に40以上あったゴング製作工房は、現在13ほどであることが分かった。また高齢の現役世代の後を継ぐゴング製作者が少なくなっていることから、同村落のゴング製作の伝統を維持するには政府によるゴング製作者、工房に対する経済的な支援、職人の養成などの政策が必要であることが示唆された。今回の研究では、他のゴング製作工房の状況、ゴング販売に関する詳しいデータを得ることができなかったため、今後の課題としたい。

ベトナム中部高原のコントウム省、および、ジャライ省の複数の少数民族村落で、ゴングの所有者、ゴング調律師などに対し、ゴングの流通に関して聞き取り調査を行った。その結果、経済的な理由などから、ゴングが個人間で直接売買されることがあり、ゴングの売買は村落や民族の垣根を超えて行われていることが分かった。その背景には、バイクの普及により遠隔地への交通が容易になったことに加えて、中部高原北部の少数民族（バナ族、ジャライ族、セダン族、ゼチエン族など）の使用するゴングセットの様式、演奏方法などが類似していることが考えられる。また一部のキン族や少数民族の調律師がゴングの仲買人の役割を担っている事も明らかになった。しかし、彼らの存在が当該地域のゴング流通にどれほどの影響を与えているのかは今回の調査でははっきり分からなかった。また当初予定していた国境付近、および、国境を越えたゴング取引の調査については、当地の情勢、時間的な制約などから今回は行う事ができなかった。これらは今後の課題としたい。以上より、当該地域におけるゴング文化の動態の一部を把握することができた。

当初はゴングの製作と流通に焦点を当てた映像作品を制作・公開する予定であったが、同テーマに関して作品を作る上で十分

な映像を撮ることができなかった。そのため、ゴング文化の動態を示す事例として、ジャライ族の墓放棄祭に関する民族誌映画「Po thi」を制作した（Vincenzo Della Ratta氏と共同制作）。本作品のもととなる調査では、ジャライ省にあるジャライ族の村落で祭の進行を準備から終了まで2日間ビデオカメラで撮影し、後日、村の年長者に聞き取り調査を実施した。製作した映画はエストニアの国際民族誌映画祭で入選し、当地での上映と質疑応答に参加した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

柳沢英輔、ベトナムにおけるゴング製作フッキウ村を事例として、国立民族学博物館研究報告、査読有、38巻3号、2014年、421-453

〔学会発表〕（計4件）

Eisuke Yanagisawa、民族誌映画「Po thi」の上映と質疑応答、11th Tartu World Film Festival、2014年3月19日、Tartu Uus Teater（エストニア）

柳沢英輔、ゴング文化を支える調律師—ベトナム中部高原の事例から、東洋音楽学会第64回大会パネルディスカッション「東南アジアのゴング文化研究への視角」、2013年11月10日、静岡文化芸術大学

柳沢英輔、ベトナム・ホイアン近郊のゴング製作について、連携研究会「映像による芸能の民族誌の人間文化資源的活用」、2013年5月26日、国立民族学博物館

〔その他〕

<http://otonoha.x0.com>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

柳沢英輔 (YANAGISAWA, Eisuke)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来
研究員

研究者番号 : 00637134

(2)研究分担者

()

研究者番号 :

(3)連携研究者

()

研究者番号 :